



3月11日、市内中学校の卒業式が行われました。府中中学校では、142名の生徒一人ひとりに、原部浩樹校長から「おめでとう！」の言葉とともに卒業証書が手渡されました。

この日は、東日本大震災発生から10年目ということで、犠牲者へ黙祷

が捧げられました。卒業証書授与後には、PTAからのサプライズ企画として、テレビなどにも出演したことがある「我武者羅應援團」が、府中中学校3年生を応援する動画がスクリーンに映し出されました。

動画を観た卒業生は「これまでに悩んだ時のことを思い出しながら見ていた。将来、困難なことにも勇気を持って向き合っていけると思う」と話しました。

当日は、卒業生と保護者のみの出席となりましたが、在校生代表による送辞が動画で流されると、答辞では、卒業生を代表して吹野太一さんが、在校生や先生、保護者に対して感謝を述べました。

子どもたちの思い出に残る卒業式にしたい

コロナ禍で迎えた令和2年度卒業式

3月19日、市内各小学校で卒業式が行われた日。恋瀬小学校では、ある取り組みが披露されました。それは、卒業式に6年生13名全員で総合表現「かたくりの花」の発表を行うというものです。

総合表現とは、音楽、国語、体育などの教科の枠を超えた、身体全身使って表現する学習です。今年3月に退職された磯前利行前校長が、卒業生が4年生の頃から共に取り組んできました。

磯前前校長が「6年生にとっては、一生に一度の卒業式。こんな時だからこそ、小規模校ならではの良さを生かして、今までにない思い出に残る卒業式にしよう」と計画しました。子どもたちはその想いに応えるかのように、一人一人が「かたくりの花」の世界をのびやかに美しく表現していました。

不安定なコロナの状況により、練習を始めることができたのは3月に入ってからだというから驚きです。

磯前前校長は「子どもたちの柔軟性と対応力を改めて感じた。これからも、自分に自信を持って未来へ力強く歩んでほしい」と話しました。

